

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270200894		
法人名	医療法人翠山会		
事業所名	介護老人保健施設 すいざん荘 グループホームぬくもり		
所在地	長崎県佐世保市赤崎町74-2		
自己評価作成日	平成24年12月11日	評価結果市町村受理日	平成25年3月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

季節折々に花見、外食や色々な行事ごとに参加して頂き、生き生きと楽しみを持って生活出来るように支援しています。
 食事は家庭的なもので、季節の野菜を多く取り入れています。花壇に季節ごとの野菜や花などを植えて手入れをしたり収穫を行い楽しんでいます。ご利用者様がその日に聴きたい曲などの音楽を流して楽しく食事ができる雰囲気作りにも心がけています。友人、家族がいつでも自由にゆっくり過ごせるよう環境を保ち、居心地が良いように希望を聞き、温かいケアを目指しています。それぞれの居室は、お一人お一人の個性を尊重し、馴染みの物や好みの装飾品を飾られ、生活感がある空間作りを自由にして頂いています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構		
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル7階		
訪問調査日	平成25年1月16日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

佐世保港を見下ろす高台にあり、同法人の施設に囲まれ民家に隣接して事業所はある。母体は医療法人であり、利用者の健康管理について安心感がある。又、同法人の他施設との共同での行事開催やスペースの提供など協力関係がある。利用者本位の視点が様々な場面に見られ、例えば利用者と共に栽培し収穫した野菜を使つての料理は美味しく、食事での会話が広がっている。また、家族の希望を聞き、反映させることで利用者の笑顔に繋がるようにと、現在家族会の開催を準備している。利用者の幸せと尊厳・安全を重視し、瞬間、瞬間が幸せであるようにと願い、「自分だったら」「親だったら」に置き換えて、温かく優しい利用者本位の支援を職員全員で取り組んでいる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	住み慣れた地域で生活が継続出来るよう、基本理念を5つ掲げ、日々、心がけている。サブ理念があり「やさしさと、笑顔あふれるぬくもり家族」を居間に掲示している。職員は理念を共有し、目標を忘れずに支援するよう心がけ、話し合い実践している。	理念は5つで構成されており、職員休憩室に貼り出し、職員は共有し日々の支援を行っている。理念に沿い、利用者の自信と生きる力に繋がるように、手を掛け過ぎず利用者の能力を低下させないよう心がけ、本人が求めるものを引出し支援するよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の公民館祭りに利用者の作品を出展し参加している。事業所内の行事に地域の幼稚園や小学校からの遊戯やコーラスをして頂いたり、中・高生の職場体験を受け入れている。又、地域の方から週1回紙芝居、絵本の読み聞かせのボランティアをして頂き交流を行っている。	地域の公民館祭りに利用者の作品を出展したり、法人の文化祭や夏祭りに地域の住民が多数参加している。中学校の職場体験や地域のボランティアの受け入れなど交流もある。又、近所の独居住民との日常的なつきあいや差し入れがあるなど地域に馴染み受け入れられている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に高齢者支援センターの職員に参加してもらい、地域の方や御家族の方々の意見、疑問、要望等をお聞きし、相談に乗って頂いたり、意見の交換を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回運営推進会議を行っている。地域の方、御家族の方、利用者の方に参加頂き、行事の報告、近況報告を行い、皆様より意見、質問等をお聴きし、話し合い、サービスの向上に活かしている。	概ね2ヶ月毎に年6回、規程のメンバーが参加して開催している。会議は主に事業所の行事や利用者の状況などの報告と情報交換である。毎回参加者は多く、利用者家族の参加も増えているが運営に関する活発な意見は出されていない。	メンバーが話しやすい雰囲気づくりや話題提供、行事と合わせた開催など会議運営を工夫し、活発な意見交換の中からサービス向上に反映できるよう期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の職員の方に、毎回必ず運営推進会議には出席して頂き、解らない点、疑問などを訊いたり、相談している。講習会・研修会案内をして頂いている。	基本的には法人の担当部署が窓口になっているが、運営推進会議に市からの参加が毎回あり、情報交換が行われている。市主催の研修会の知らせには職員が参加したり、利用者の必要な手続きなど行っている。包括支援センターから利用希望の紹介があるなど協力関係が構築されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「どんな事があっても拘束は行わない」という姿勢で、ケアに取り組んでいる。職員は研修に参加し拘束について理解している。玄関の施錠は、安全を保つ為の防犯上、施錠しているが、希望時には、開錠を行っている。母体事業所に「身体拘束委員会」があり、研修に参加し拘束しない支援に活かしている。	職員は外部・内部研修を受講しており、言葉による拘束を含め理解している。事業所は2階建てで、日中職員が居ない階下に居室があるため廊下にカメラを設置している。事業所前は急な坂で、玄関は利用者の安全を守るため日中も施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者、職員は高齢者虐待防止の講習会に参加し、高齢者の尊厳を保持し意識を深めている。早期発見、対応にて虐待の防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会に参加し、制度の理解を深めている。現在、必要な方はいらっしゃるが、必要時には、適切に対応出来るようにして行きたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に、自由に本人、家族に見学してもらい、利用者、家族の不安や疑問要望などを聴き、十分な説明を行い、理解、納得していただけるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	地域の方、事業所関係者、行政の方が参加する運営推進会議で利用者、家族の意見、要望をよく聴くようにしている。家族が行事に参加できるような機会を作り利用者と家族同士が自由に会話や意見交換ができる場を提供している。	要望、苦情の窓口は文書化し、契約時に説明している。家族の意見や要望は運営推進会議や面会時に聞き取り、申し送りノートや事務所のボードに書き職員で共有している。今後、更に家族との意見交換の広がりや家族同士の繋がりが持てるよう、家族会の設立を準備している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回は会議を行っている。問題や意見、提案など、色々活発に意見を発言し、早期に問題の対応、解決が出来るように努めている。	職員は月1回の職員会議時や気付きノートに記入し、意見・要望を伝えている。気付きノートは毎日管理者が目を通し、管理者の意見を記入し、職員で確認し共有している。車イスや水もれの修理、階段仕切りの改善など意見が反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員に合った責任のある役割、やりがいを持たせて、向上心を広げられるよう環境作りを行なっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	一人一人に合った研修に参加したり、定期的に法人内で行なわれている研修に行き技術を高めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会が主催する会合や、研修などを通して、同業者との交流があり、その場で学んだ事を持ち帰り、職員と意見交換を行い、サービスの質の向上に役立っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確認するための関係づくりに努めている	情報収集を行い状況の把握に努め、本人と面談し困っている事、不安な事、要望等を聴き理解するようにしている。本人の気持ちを気軽に話して頂ける関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	今までの状況を聞き御家族の不安や困っている事を、今後はどのように対応して行ったら良いか、家族と話し合いながら進めて行くよう心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、御家族に、今何が必要なのかを見極め、家族等と話し合い、一番適切と思われる支援の対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は日々の生活の中で、利用者の方から生活の知恵を学び、共に過ごし、会話の中でお互い支え合っている事を認識している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との連絡、報告を密に行い、来所時に本人・家族に要望、相談などして、本人を家族と共に支えて行くという関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの店で、買い物の支援、行きつけの美容室へ同行し、支援している。友人との手紙のやりとりの代筆や、電話をかけて気持ちを伝えている。友人や近所の方が時々訪問されて、ゆっくり会話が楽しめる、環境作りを行なっている。	家族や親戚、自宅近所の知人の訪問時には職員はお茶を出し、自室で団欒して貰っている。又、利用者の馴染みである美容院に2、3ヶ月に一度パーマに出かけたり、銀行や手紙の代筆など利用者の希望を聞きながら馴染みの継続支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常的に、一人一人の性格、状況把握しコミュニケーションを多くし、情報収集に努めている。利用者が孤立しないように、より良い関係が築けるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用が終了(入院)しても、面会や電話連絡して状態を聞いたり、必要に応じて相談やアドバイスを行い支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常的に関わる中で会話を通して一人一人の考えや、希望などを聞きだして記録しミーティングで検討し、ご本人の希望に合うようにしている。	利用者の思いは、入浴時やおやつなどの寛いだ時間に聞いている。意思表示が困難な利用者には職員が声かけし、表情や態度などで判断している。把握した内容は申し送りノートや業務日誌に記入し職員で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御家族友人より聞き取りし、ご本人よりの会話にて暮らしぶり、近辺の状況・環境などを全体的を把握するように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	体調に合わせて好みを聞き取り、又職員全体で会議(カンファレンス)を開き、意見を出し合いその方に合ったやり方・方法を協議し介護計画を作成しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人や御家族に希望・御意見をお聴きし職員全員で会議(カンファレンス)を開き、意見を出し合いご本人の現状に合った方法を協議し、介護計画を作成しています。	利用者が苦痛なく前の生活を継続できるよう支援するため、利用者や家族に希望を聞き、事業所でできることを明確にし家族の協力を得る体制を作っている。作成した計画は家族の同意を得て、実施している。計画は毎日チェックし、1ヶ月に1度家族にフィードバックしている。月一度のカンファレンスで職員の意見も反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々、ご利用者の変化・対応・気づき等を記録して、すべて残しています。職員は毎日見守りをしながら、細かい変化も伝達して共有しながら、実践や介護計画の見直しに活かしています		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人・御家族の状況・希望に対して母体老健や高齢者支援センター等と連携を図りご本人にとって支援を柔軟に行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の公民館長さんや民生委員の方と日頃から交流を図り、近隣の方々とも出来るだけ交流が出来るよう支援しています。また 地域の交番とも日頃より交流をしています。皆様が安心して生活できるような環境を作っています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人・ご家族の希望を尊重し医療機関へ受診、特に希望がない方は事業所の掛かりつけ医へ受診していただき体調に合わせ他の医療機関への対応も支援しています。歯科医による口腔ケアを月2回行っています	本人の希望を聞き、母体の医療機関に変更するか、かかりつけ医を継続するか本人・家族が選択している。かかりつけ医受診は家族が同行しており、事業所は日々の状態を文書にして渡している。受診結果や薬の変更は連絡があり、記録し職員間で共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々のバイタルチェックで体調の変化があった場合、主治医へ報告し指示を受けて個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援しています		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合医療機関関係者と密に連絡し情報を入手し、定期的にお見舞いに行き、御家族様・ご本人の相談に対応し退院後の希望を聴いたりしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族と話し合いご利用者が安心して終末期を過ごしていただけるよう取り組んでいる。病状急変時は主治医との連絡は24時間体制で連携をとっている。看取りの指針は文書化し事業所で出来ることを十分に説明、理解していただき同意を頂いています。	これまでに看取りの実績はないが、重度化・終末期に入った場合は、家族に事業所でできることや連携する母体医療機関についても説明している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDの取り扱い・急変時の対応マニュアルに添って講習や研修に参加し訓練を定期的に行い、急変時に対応できるよう備えています。救命講習を受け、いざという時の為に学び備えています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災・地震時等災害時の対応マニュアルを作成し訓練を年2回行っています。母体の老健・同列の事業所と連携体制で対応しています。又消防署の立会いにて指導を受けています。訓練の様子を撮影したDVDを見ていただき協力を得られる体制を築いています。	年2回の避難訓練は隣接して同法人の他施設があるため合同訓練で行っている。1回は消防署立ち合いで実施している。スプリンクラーを設置しており、漏電、放火などの危険性を考え周囲の点検も行っている。ただし、地域住民の事業所への協力体制は不足している。	新年に消防分団へ挨拶をしていることもあり、今後は消防分団に働きかけ、事業所の災害時の救出援助について協力関係を築くことが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々の言葉遣いや対応には気配り心配りをしています。個別でプライバシーを損なわないように慎重に対応しています。又会議の場でも議題に話し合っています。	認知症を理解し、人生の先輩として尊敬し言動に配慮している。言葉かけは敬語を基本に丁寧に話しており、職員間で注意している。失敗時には周囲に気づかれないよう対応している。守秘義務の誓約書は法人が入社時に取っており、個人記録は所定の場所に管理されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の会話の中でリラックスした状態で、ご利用者の希望や思いを聞きだしたり、入浴時にゆっくり会話して昔話や思いを聞きだしたりして本人の希望や思いを自ら表せるよう努力しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れは、基本的に決まっていますが、ご利用者のその日の体調と希望に合わせて、自室にて自由に過ごしていただいています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日着られる服は、ご利用者が選ばれていますが季節に合わせてコーデインートの手助けをしています。外出時には、お化粧しおしゃれされる方も居られます。買い物の動向を希望される方には同行しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好みを把握し、季節感を感じる食材を献立に入れるようにしています。ご利用者と職員と一緒に準備し食事と一緒にして会話を楽しみながら食事しています。又誕生日の昼食はご利用者の希望を聴き提供しています。	食事は手作りで旬の食材を使うことで季節を感じるよう工夫している。キザミや減塩など利用者に合わせて提供しており、嗜好やアレルギーを把握し、代替品を準備している。職員も食卓を囲み、楽しく食事している。行事食や外食もあり、誕生日には本人の希望の献立など食事が楽しめるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の食事量は、体調に合わせて調整しています。食事形態は個々に合わせ刻み・粗刻みにしたりしてご利用者が食べやすいよう工夫しています。水分は食間にもまめに摂取していただくよう声かけを行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後は、声掛けをして口腔ケアをしてもらっています。ご自分で出来ない場合は職員が介助を行い、義歯は毎日夕食後義歯洗浄剤で清潔を保っています。又 希望により口腔内のケアを歯科受診をされています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄に合わせ、声かけ・介助を行っています。出来るだけ布パンツで尿意がある方は過ごしていただき、パット・紙パンツとレベルに合わせて支援しています。夜間は、Pトイレを設置し安全安心して排尿していただくようしています。	日中、オムツ利用はなく、排泄が自立している利用者が多い。職員はリハビリパンツから布パンツに改善するよう、声かけの支援でトイレでの排泄に繋がっている。支援を継続した結果、リハビリパンツを使用している利用者が状況に応じて布パンツで過ごすことが出来るように改善している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝 牛乳やお茶又はコーヒー等、声かけし食事以外にも飲んでいただいています。体調に合わせて刻み・おかゆ等野菜を多く摂取していただき、毎日体操・レクリエーション等して体を動かしてもらいご本人が出来る事はして頂いています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は一応決まっていますが、それ以外で希望があれば、入浴を行っています。体調に合わせて入浴をしていただき、体調不良時は清拭更衣にて随時対応しています。	入浴は週3回程度としているが、拒否がある場合は、声かけを工夫したり無理強いせず、着替えるだけの場合もある。浴室が大きいので、同性の利用者を2人ずつ入浴支援している。利用者によっては好みの化粧品もあり、個別に対応している。しょうぶ湯などの工夫もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	バイタルで異常があったり体調不良を訴えられた場合には、無理をしないで横になっていただき、夜間不眠を訴えられる方は、日中散歩やお手伝いをお願いしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理説明書は身近に設置し確認をしています。服薬は2名で確認して準備し、手渡し時に名前を声に出しお渡ししています。体調に合わせて主治医に連絡し投薬指示を受け対応しています。服薬変更時は記録に残し伝達しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節ごとに野菜や花等を植えて、手入れをしたり収穫を行い楽しまれています。又もやしの根きり・配膳・後片付け等進んで手伝われています。広告氏でゴミ箱を折られ生活に役立っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	体調がよく希望されれば、散歩に出かけたり又は近所に買い物・美容室等に外出支援を行っています。時々 ご家族や友人と外出されお食事されたりして気分転換を図られています。季節により花見や外食・動物園へ出かけています。	気候や利用者の体調を考慮しながら、外気浴を楽しんだり、病院受診のあとにドライブすることがある。介護計画に外出支援を入れて、月に2回外出している利用者もいる。大半の利用者は家族と一緒に法事などの行事で出かけている。季節の花見や動物園など外出する楽しみを支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が希望されれば、管理能力に応じて小額のお金は持って頂いたりして、外出時に買い物や好きな物を買ってもらっています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は希望時には、おかけする手伝いを行ったり耳が不自由な方は変わりにお話をします。又手紙の代筆や文章を読んであげたりして支援を行っています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	希望によりエアコンの温度の調整・カーテンを開閉しています。居間のテレビの音量、チャンネルについてはその都度希望で行っています。トイレの便座の温度調整・食事の時には音楽を流しフロアからは朝日が見え山々が近くにあり季節を感じられています。	リビングは明るく、ソファや畳敷きがあり利用者は思い思いの場所で寛いでいる。季節の花が活けてあり、利用者皆で作った作品が飾られ和やかな空間となっている。1階が居室、2階がリビングのため移動はエレベーターを使用している。共用トイレが少ないため居室のポータブルトイレを使用しているが使用後は直ぐに清掃している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳の上で新聞を読まれたり、ソファに座られ、気の合った方とお話されたり、テレビを見られたりされています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	お位牌や御家族の写真・植木等ご家族と相談し、持ってこられています。又ご自分で書かれた絵・習字等飾られて、居心地良く生活されています。又カレンダーを毎月自分で数枚の中から選んで色を塗り、自室に飾られています。	位牌や家族の写真が貼られたり、鉢植えが置かれていたり、手作りのカレンダーがあるなど利用者の個性が感じられ寛げる居室になっている。気になる臭気もない。ただし、居室のポータブルトイレには布をかける配慮があるが尿瓶やパッドに対する配慮が不足している。	本人の尊厳を重視し、居心地のいい居室とするために尿瓶やパッドの置き場を検討することが望まれる。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行レベルに合わせ、歩行器・シルバーカー・杖と使用して、自由に移動又は介助にて行われています。又 転倒予防の為、床はすべてカーペットを使用しています。		